

ジアミド系薬剤に対する抵抗性チャノホソガの出現

サムコルFL10に対して抵抗性を有するチャノホソガが認められ、フェニックスFL、エクシレルSEでも効果の低下を確認

背景・目的

- ・南薩地域の一部茶園でジアミド系のサムコルFL10に対するチャノホソガの防除効果が低下する事例を確認
- ・茶の生産安定にはチャノホソガに農薬登録のあるジアミド系4剤に対する薬剤感受性の解明が必要

成果の内容

サムコルFL10の死亡率

- ・卵期処理（産卵1日後）
平成25年が100%
→平成30年は**64%**に低下
- ・幼虫潜葉期処理（産卵4日後）
平成25年が88%
→平成30年は**40%**に低下

フェニックスFL、エクシレルSE、テツパン液剤の死亡率

- ・フェニックスFLは卵期及び幼虫潜葉期処理のいずれでも低い
- ・エクシレルSEは幼虫潜葉期処理で低い
- ・テツパン液剤は卵期及び幼虫潜葉期処理のいずれでも高い

死亡率(%)

ジアミド系 薬剤名	希釈 倍率	死亡率(%)			
		卵期処理(産卵1日後)		幼虫潜葉期処理(産卵4日後)	
		平成25年	平成30年	平成25年	平成30年
サムコルFL10	4,000	100	64	88	40
フェニックスFL	2,000	-	13	-	7
エクシレルSE	2,000	-	100	-	60
テツパン液剤	2,000	-	100	-	93

注1)平成25年及び平成30年の供試虫は南九州市の同一地点から採集 注2)－は未調査

導入
メリット

○サムコルFL10、フェニックスFL、エクシレルSEに対するチャノホソガの防除効果の低下

○幼虫による被害(三角巻葉)の増加
三角巻葉内の虫糞による製茶品質の低下



○被害の多発地域では、「テツパン液剤」に限定。
(薬剤抵抗性の発現の防止には、ジアミド系薬剤の連用の回避)

製茶品質の安定化

期待される効果

茶栽培農家の製茶品質の安定化

普及対象・範囲
南薩地域の茶栽培農家